



赤い車

型染めと文
香取 健枝さん
横割四丁目六一五



わが心のふるえと富士山

10

いつも何げなく見ている富士山。旅行に行って帰つてから久しぶりに眺める富士山。富士市に住んで二十年余りになる私にとって、富士山の存在は日ごと大きなものになっていました。

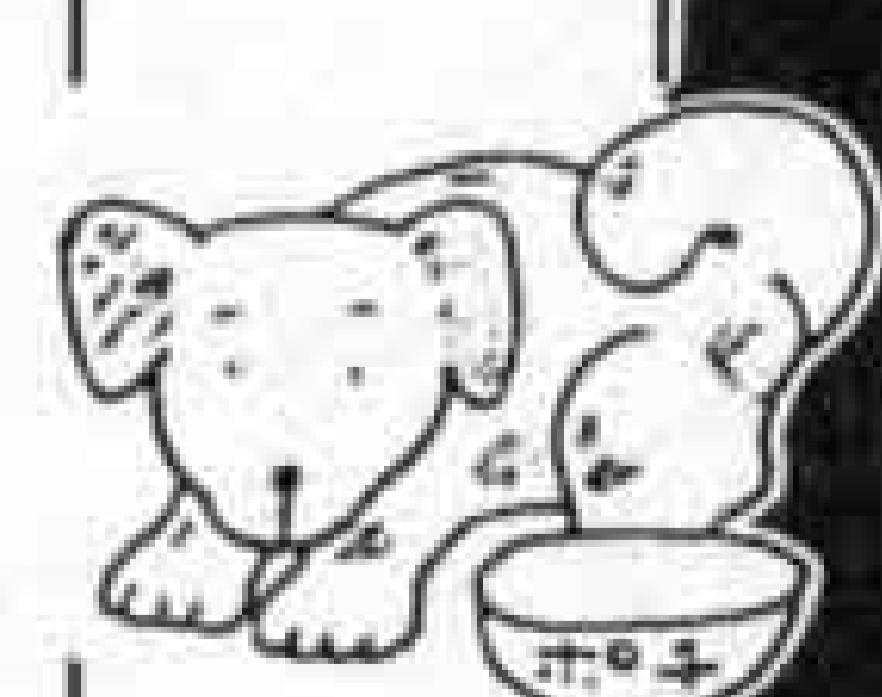
見て当たり前、でもしばらく見えないと何となく落ちつかず、その日のリズムが乱れるのです。眺めていてほつとするそんな富士山のスケッチは、なかなかうまくいきません。富士山の存在が余りに大きく、だれもが共通して持つているイメージがのしかかって苦勞したのですが、結局身近なところでの、日常的な光景の中の富士山を描いてみました。

こちら編集室

ドアをあけて驚いた。何と患者さんで待合室はいっぱい。苦しそうにせき込む子供。頭のてっぺんから足のつま先まで、ぐあいの悪さを表現しているおじさまなど。

私は、ただの花粉症。この時期だけの医者通り。ふだん人様から

褒めてもらえることといったら、「頑丈でいいねえ」なのに。ああ、それなのに花粉ごときには負けるなんて。だけど、この時期だけわかる。病む人の、心の痛みが少しだけ。体験しなけりやあ理解できないなんて、ちょっと悲しいけれど――。



春の芽吹きが始まるころになると、電話で、犬の苦情が寄せられるようになります。「放し飼いの犬が、種をまいたばかりの畑を荒らして困ります」と。そのほかにも、ふんの始末や鳴き声などに苦情がふえています。

愛犬家の皆さん！犬嫌いの人がこれ以上ふえないために、ぜひご一考を。

広報ふじは環境にやさしい再生紙を使っています